

感染症情報 6月3日～9日

府下小児科197医療機関(堺市19)から

①手足口病	1,397例(堺市 134例)
②感染性胃腸炎	1,249例(堺市 59例)
③溶連菌感染症	653例(堺市 86例)
④ヘルパンギーナ	262例(堺市 36例)
⑤伝染性紅斑	170例(堺市 20例)

府下インフルエンザ定点300医療機関(堺市29)から

インフルエンザ 127例(堺市 19例)

感染症報告数は前週比14.3%増の4,098件であった。

報告数の第1位は手足口病で、以下感染性胃腸炎、溶連菌感染症、ヘルパンギーナ、伝染性紅斑の順であった。

手足口病が府下で50%増、堺市で34%増であった。堺市では定点当たり5.26→7.05であり、警報レベル中である。原因ウイルスとしてコクサッキーウイルスA6が優位に検出されているとある。当院の周囲でも大流行している施設がある。感染性胃腸炎は府下で前週と比して7%減、堺市は24%減であった。溶連菌感染症は府下で2%減、堺市で15%増となった。ヘルパンギーナが府下で87%増、堺市で19例→36例(89%増)であった。伝染性紅斑は府下で32%増、堺市で8例→20例であった。

インフルエンザは府下で前週192例→今回127例に減り、堺市でも前週27例→今回19例に減った。

麻疹や風疹の報告はなかった。